

magazine kobekko june 1967 no. 74

郷土を愛する人々の雑誌

神戸っ子



神戸っ子 昭和四十年一月二十日第三種郵便物誌 号 昭和四十二年六月一日印刷 通巻七十四号 昭和四十二年六月一日発行 毎月一回

選びぬかれた

ミキモトパールだけが生みだせる

優雅の極致

まさに宝石の女王です

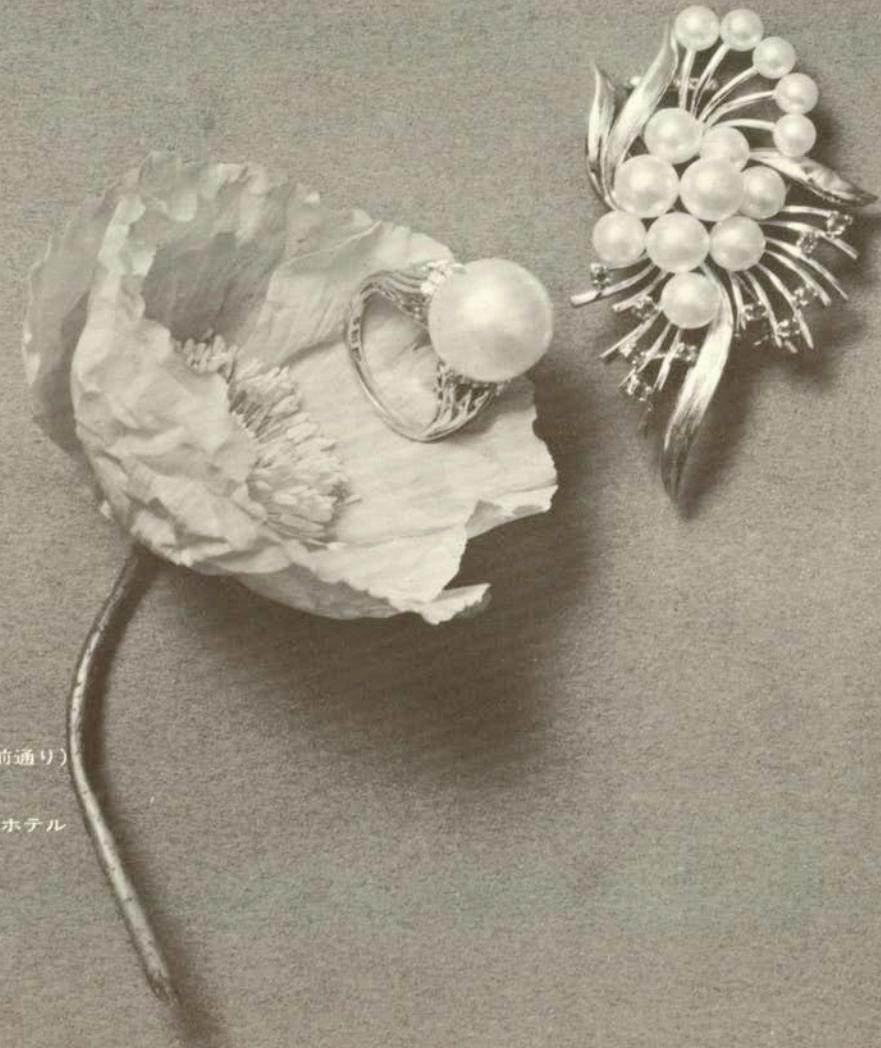
6月は真珠の月

真珠の代名詞

ミキモトパールの

気品あふれる装身具を

お選びください



御木本真珠店

神戸店 - 三ノ宮 - 神戸国際会館

TEL 22-0062

大阪支店 - 堂島 - 新大ビル

TEL 363-0247

京都 - ミキモトパール京都(新門前通り)

TEL 54-8171

都ホテル・京都ホテル・京都国際ホテル

大阪 - 阪神・高島屋・松坂屋

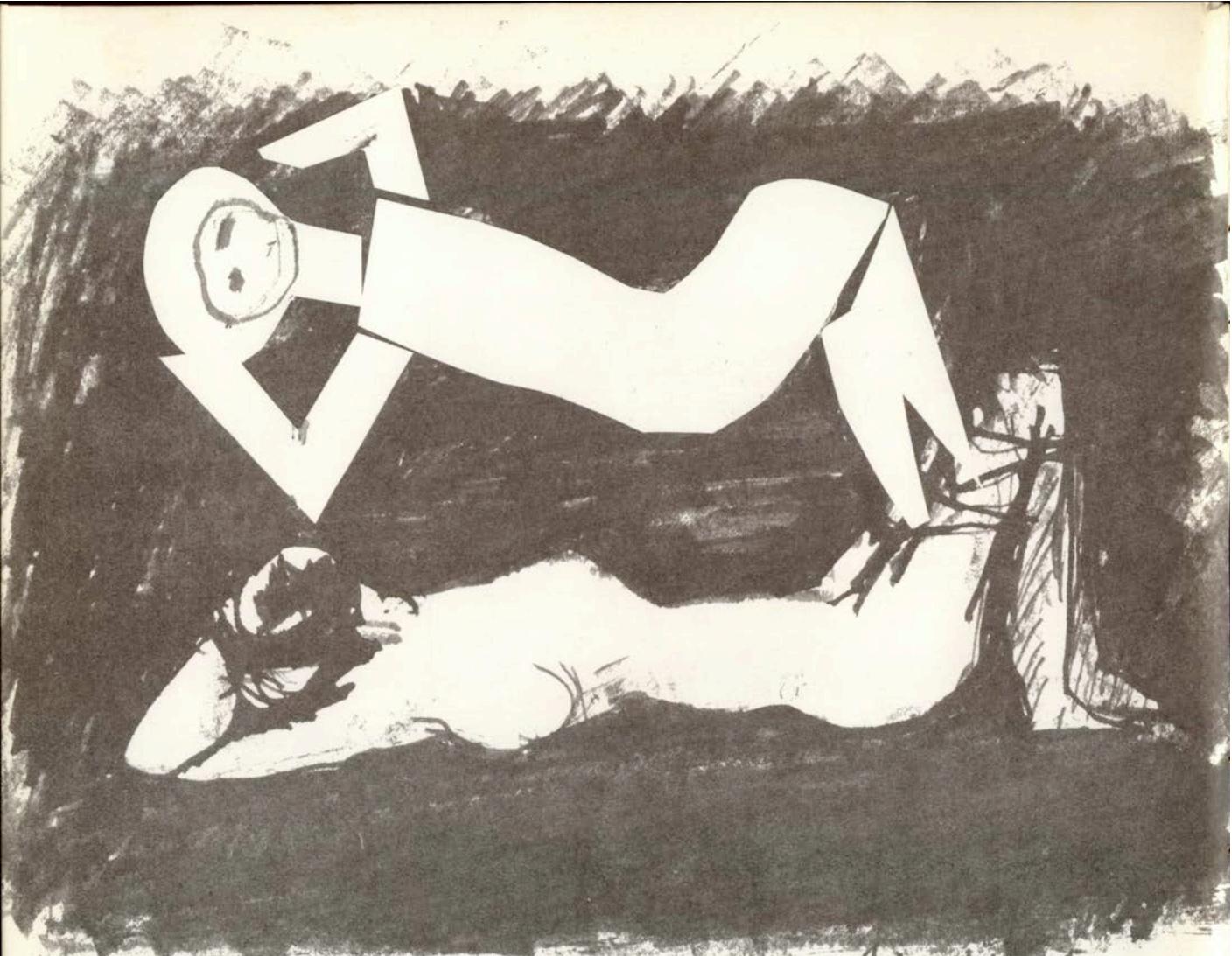
● 本店 - 東京 - 銀座四丁目

● 価格やデザインについては

みなさまのご希望にそよう

各種とりそろえてございます

© 1967-6



W. TAKAHASHI

猫 白い猫が 何匹も繁殖した なかには貴婦人のように怜俐な眼をしたのもいた 金の眼
ブルーの眼 黒い猫は 短かい足で胴長の女のようにおしりを振って歩くのもいた

絵・詩——津高和一



舶来服地・特選洋品

ウネ

神戸・元町1丁目

TEL 33-2677

東京・白木屋1階

TEL 211-0511(代表)

ズームアップ

三輪信枝（読売テレビ・11PM。カバーガール）

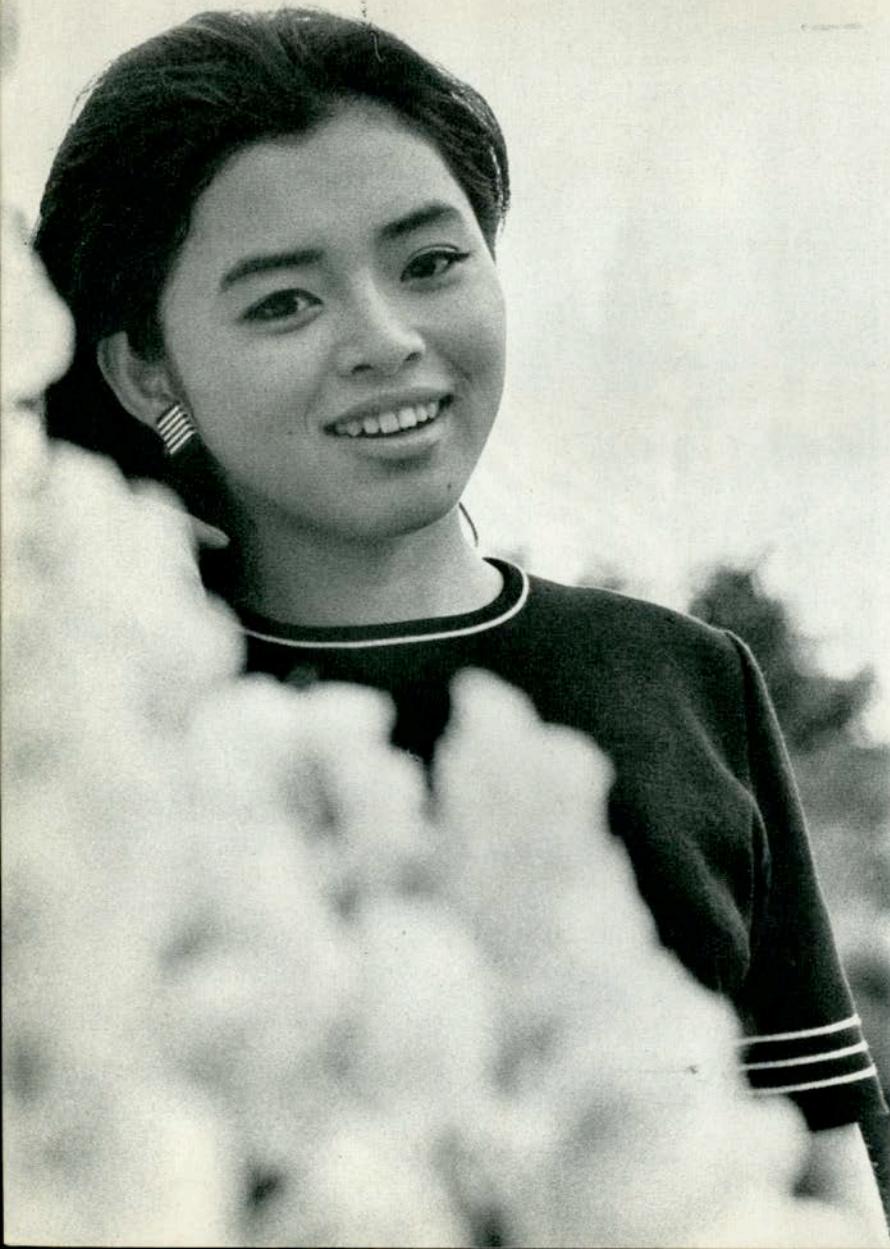
カメラ・浜岡 収

読売TVの人気番組「11PM」で、深夜戯には、すっかりおなじみの三輪信枝さん。昨秋11月より「レギュラー」として登場。ほかの二人のカバーガールとともに番組に花をそえ「スムーズ」に進行させるアイドルとして活躍している。その美しいフォルムと敏捷な動きは、可憐そのもの。「お仕事はつらいこともあるけど、とても楽しい」。そうで、最近では、藤本義一氏とのコマーシャルも板につき、アドリブでうまくこなしている。

火・木曜日は「スタジオへ」。それに、彼女にはもう一つの仕事、お茶漬の店「宮城」の経営もある。「夜の仕事ばかりで……」といったらつぱく笑う一人の子の彼女は、明かるく素朴で、気取らない性格だ。ツツジの咲き乱れる中を、かけまわり、藤棚にとびつく彼女。そんな茶目っ氣の中にも、ちょっぴりアルカイックな風情が漂う。

昭和二十年、シャンハイの生まれ。山手女子短大家政科卒。現在の最大の悩みは、「やせること!」これからも、彼女の持味を生かしながら、一步一步着実に歩んでほしいのだ。

（相楽園にて）



世界の宝石のタツノの名品!
もってタツノの目が選んだ
確信を



WG-77-0.67ctダイヤモンド
WG-78-0.21ctダイヤモンド
WG-79-0.12ctダイヤモンド

アラジン
宝石店

***宝石店
元町2丁目(山側)TEL⑥ 0387-2552
タツノの特典/当店でお買上げのダイヤ指輪は
販売価格で引取り交換をお約束しております

ズームアップ

吉田啓正（神戸市須磨水族館・飼育係長）

カメラ・浜岡 収

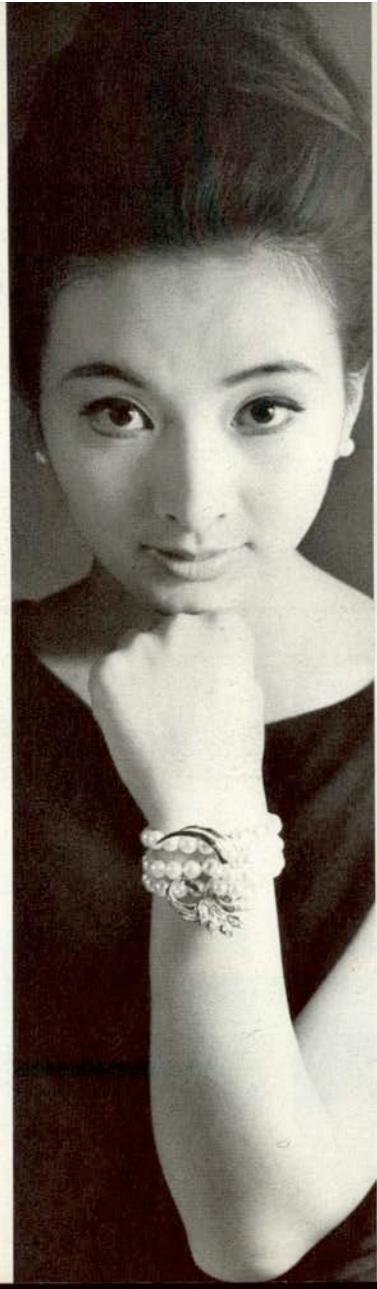
12

神戸市立須磨水族館が10年を迎える。10周年にふさわしい嬉しいニュースは、開館以来飼育係に勤務する吉田啓正氏（40）が、4月18日に水産学博士になられたことだ。駒沢大学3年まで通つて兵隊にゆき、生死をさまよつて帰還したとき、北大の山田幸雄先生にひかれて好きな分類学の道に入ろうと決心される。その頃から海藻の生活に興味を持つていたそうだ。今度も水族館の水槽では海藻が成育せず、海藻がないと成育しない魚は飼育できないうえ、海藻のない水槽で飼育できる魚が限られることに着目。約5年間にわかつてアオサ、ヒトエグサ科の海藻15種の一生を研究、論文にまとめ北大に提出して博士の誕生となつた。

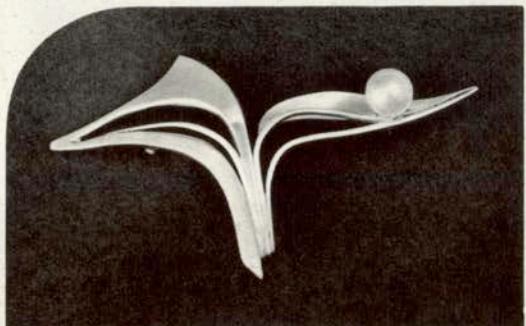
（神戸は国際的な土地柄なので、外国の魚をどんどんいれたいし、神戸に来る外人

に日本の魚を見せたい。10年目を機会に建物の立派さよりスタッフの充実した力によつて内容と個性のある須磨水族館にしたいですネ」と柔和な眼が魚を語ると、きはキラキラ輝やき然がこもる。マスコミの発達で何でもよく知つてゐる現代づきにまやかしまきかない勉強家らしい何んだつた。（神戸市立須磨水族館にて）





TASAKI PEARLS



● 6月の海に生まれた自然の輝やきタサキパール

田崎真珠

本店 神戸市兵庫区旗塚通6-9

三宮店 神戸新聞会館秀品店内

あなたの真珠はパール・マークのお店で

日本真珠小売店協会加盟店



カルメンが口にくわえた花は紅のバラ
バラは情熱の花といわれる。遠い昔
から文化の発展とともに人に愛され
てきた花バラはまたおとぎの国の物語
りに出てくるかわいい花である。

神戸の街はほかの街にくらべて
緑の多い街である。そして数多くの街
頭バラ園があちこちにみかけられる
市役所の南、東遊園地内には、つるバラ
が咲きほこり、道行く人た
ちの目を楽しませてくれている。

神戸バラ協会は創立から今年で
十五年目、神戸の街を花いっぱい
バラいっぱいに、を目的に、市民の手

で育てられてきた。

会員の見事なばかりのチ

ームワークは今後もさらに

充実して、ますます神戸の街
をバラの花でうずめてくれるこ

とだろう。

写真は前列左から
ノブコ・テ・ヘーズ、

ムーア、奥秀夫、桑原
泰葉、石井千代松、白

崎輝彦

後列左から

大町かね子、白崎百合子、
山口ならえ、田村ふさ
よ、中西悦子、安田
歌子、筑紫新子(会
長)、塙本喜代子、

藤岡秀一
(神戸市役所南
東遊園地内街頭
バラ園で写す)



夏を呼ぶ装いは……

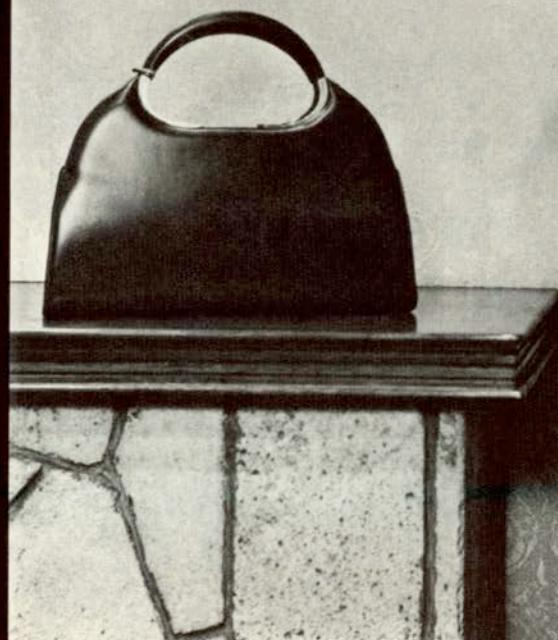
カセットのユニークなデザインで

高級お仕立て・ブレタボルテ
舶来生地・アクセサリー・雑貨

*ジョリー

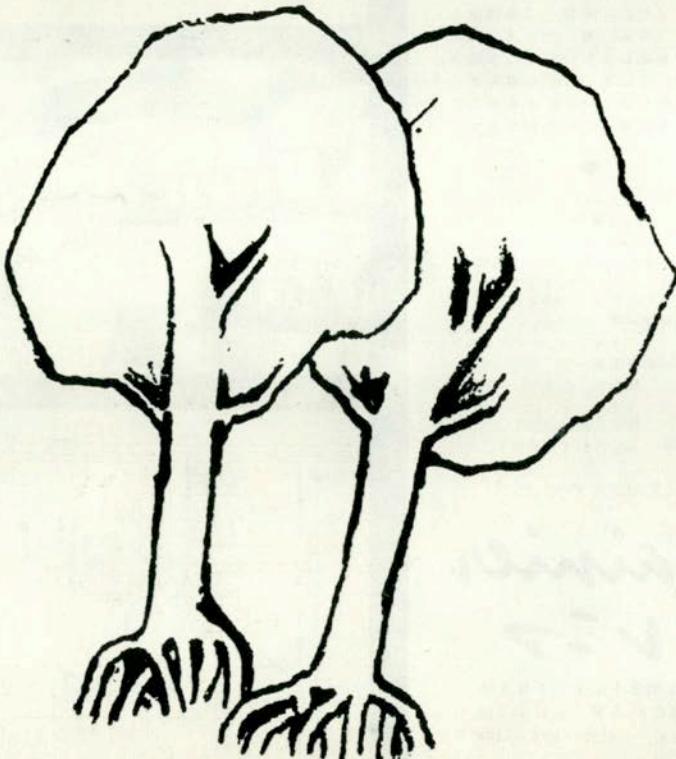
カセット

神戸・三宮・大丸前・市電筋浜側
TEL. 神戸 39-4992



表紙／小磯良平

- 1 Second Cover／津高和一
- 3 ズーム・アップ／撮影一浜岡収
- 11 三輪信枝 ⑫吉田啓正
- 7 ある集い／神戸バラ協会
- 11 わたしの意見／山口秀男
- 13 隨想三題／お江戸昨今 神戸っ子のひとりごと・松井高男
神戸へ帰りたいなア・藤本義一
神戸カラー東京カラー・永田良一郎
- 17 隨想／アラスカへの道＝マウント・コウベ登頂記・宮崎辰雄
隨想／「神戸っ子」・横尾忠則
隨想／神戸－東京・古林喜楽
- 27 神戸っ子放談／村上正二郎・柏井健一・岡崎真雄
- 31 経済ポケットジャーナル
- 32 技術ジャーナル／諸岡博龍
- 35 バイオニア神戸⑥／滝川辯三・有井基
- 41 ある集い＝その足あと／神戸バラ協会
- 42 神戸のアーバンデザイン／水谷頼介＋
神戸のモダーンリビング／チームUR
- 44 CINEMA⑪／滝川長治
- 46 KOBE'S SHIP LOUNGE⑪／文・玉奥章
- 48 動物園飼育日記⑬／亀井一成
- 51 Let's Go American Foot Ball ⑥／米田満
- 56 特集 ① Sun + Summer
- 65 六甲山グルーム五十回忌／カメラルボ
- 68 神戸新景
- 69 Kobe Look／福富芳美
- 72 座談会－元町のバネルディスカッション
元町の未来図を描いて－
- 83 れんさいマンガ⑯ベッコ／水井文明
- 86 男の気持⑤男と女と／向井修二
- 87 神戸遊戯誌⑮・バドミントン⑯／青木重雄
- 89 神戸うまいもん巡礼⑯／赤尾兜子
- 91 淑女入門⑬実益淑女・鶴居羊子
- 92 隨想／森秀人
- 96 1NG コーナー
- 97 ポケットジャーナル
- 101 異人館物語第五話
耽溺の詩人モラエス⑤／小山牧子
- 111 連載小説＝兵庫の女〈十六回〉／武田繁太郎
- 118 対話12ヶ月
対話＝安水穂和・カメラ＝緒方しげを
- 121 銀店抄／赤根和生
- カメラ／米田定蔵・赤松慶三郎
- レイアウト・カット／港野千穂





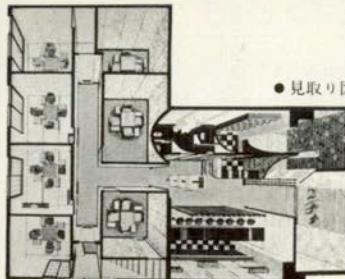
このたび会員制のクラブで会員のみなさまに手軽く使っていただけるハイムードのレンダールームを開きました。ご会合・ご商談はもちろん、麻雀、碁、チェス、カードなどを楽しんでいただける設備を用意いたしました。お客様の接待に気持よくひとときをすごされるよう配慮いたしております。

- ◆
- 会員=入会金は個人 ¥10,000
法人の場合(4名) ¥30,000
(月の会とはいただきません)
- 会員の権利=下記料金により個室
利用できます。
またビジター紹介もできます。
- 営業時間=平日5:00pm~11:00pm
土曜2:00pm~11:00pm
- 料金=会員借室一室 平日2時間
以内 1人様1時間につき 200円 以後1時間
増に1人様 150円。
- 予約=ご来店の際はお電話をどうぞ。

LENDER ROOMS

Rainier
レニア

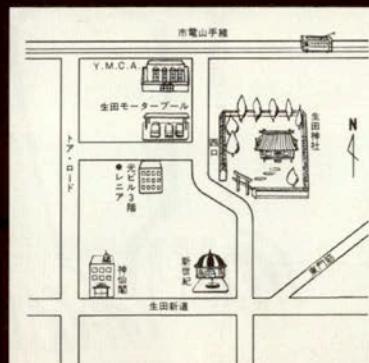
* 生田区中山手2丁目89
YMCA浜側 光ビル3階
TEL <39> 1497・1498



● 見取り図

*
新しく誕生した
レンダールームへの
お誘い

*



*わたしの意見

伝統のないことを
誇にしよう



山 口 秀 男

〈朝日新聞神戸支局長〉

何ごともマヒするということは恐ろしいことだ。知らない、ということも強いことだ。

ゲタばきで坂道を下つていけば、いつでも気楽に泳げた時代、自動車の警笛にオドオドしなくとも、犬を連れて山手の坂道を散歩する楽しみを知る人は少なくなった。知つてはいても、大阪の海もなくなり、東京の空が汚れ、周囲がどこもそんなものだから「都会の暮しなんてまあこんなものかな」と思いこんでしまう。あきらめてしまう。

あきらめるだけなら、まだかわいげがある。なんでもかんでも、すぐ真似をしたがるというのも困つたものだこれをやらんとバスに乗り遅れると信じている手合いがいるから度し難い。ミニスカートの流行くらいですめば愛きょうだが、これがやみくもに工場誘致とか不良住宅街の野放しといったことになると、ことは深刻になるのだ。といったような発想から、私はときにこんな暴論を相手かまわすぶつかってみたりする。

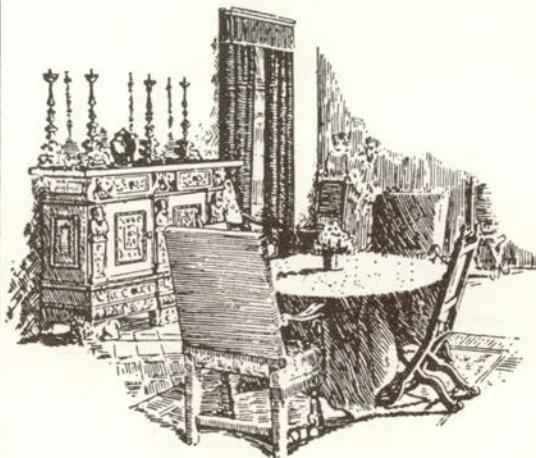
元町や三ノ宮の商店街。あれはいったいなんだ。アーケードで年がら年中青空を斜断して、うす汚いサクラのホンコンフラワーを並べ立てて、まるで田舎町の商店街ではないか。味がない。太陽の町が泣くよ。山も山で、ゴテゴテ厚化粧するばかりだ。だいたいお節介がすぎる。悪女の深情けなんだ。

そして「神戸文化不毛論」で情けない顔をする人にはこういってやる。

町に伝統がないこと、植民地であること。それを誇りにするのだ。お祭りがないことだつて、そんな仰々しいものがないことを自慢にできないか。ありふれた美術館や劇場をいたずらに欲しがるより、この恵まれた緑の背山を利用した、野外劇場。いつでも画家のタマゴが作品を展示しているようなほほえましい「街頭画廊」といったもの。つまり町全体をひとつ芸術作品にするというのはどうだろう。

大衆化というのは結構なことなのだが、それはなにも個性を捨ててよいということにはならないはずなのである。

家具・室内装飾・工芸品



6月2日開店

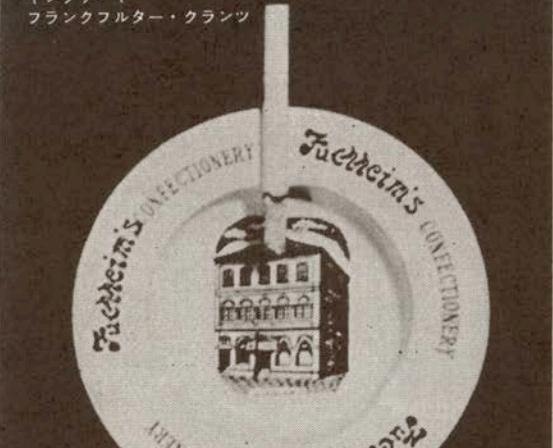
東京白木屋1階 <211> 0511

永田良介商店

大丸前 TEL { (39) 3737
3739

のと
いと
るイ
飾ド
統味
憩ひ
きを
菓子

パウム・クーヘン
ピスケット
キングケーキ
フランクフルター・クランツ



ドイツ菓子 本店 神戸三宮生田神社前
TEL (33) 1694-8064

三宮店 神戸大丸前市電筋
TEL (33) 2101 (39) 3808

さんちか店 三宮地下街スイーツタウン
TEL (39) 3539

東京/銀座店・渋谷店 その他全国有名百貨店

隨想三題

絵
津高和一

東京—神戸

お江戸暁今
神戸つ子の
ひとりごと

松井高男

八神戸新聞東京支社長

ユトリロ展が開かれ、ソフト・

ユトリロ展が開かれ、ソフト・ムードの美濃部さんが浮動票をかづさらつて都知事に、そしてモスクワ・フィルが訪れ、通産省では資本の自由化をひかえ目下各業界の意見をとりまとめ中。そうしたなかで女性票の重要さを知つてからはずか、運営の八重桜満開の新宿御苑で佐藤栄作さん主催の「夫人同伴観桜会」が開かれ、やがてやつて来るベルギー「十世紀」ベニ團のうわさとともに、うすら寒

日本一を誇る霞ヶ関の超高層三井ビルが、三十六階最後の鉄骨を組み上げたまではよかつたが、羽田行きモノレールの始発点、浜松ビルが名乗りをあげ、これを日本町駅西口に、それより二階高い三十八階建ての貿易・交通センターといふにいたっては、アホらしくていかん。ネコのひたいほどの三角の空き地にも三角のビルがそびえ建つという世はまさに超・高層化時代。一見豪華風で庶民には無縁のマンション、コープのたぐいもどんどん建つが、依然都民の42%が住宅に困窮している。一人当たり2.5畳の狭小過密居住世帯は、全国の40%が東京に集中。同様、世帯の都内に占める比率は77%。自民党作成のパンフレット『21世紀の大東京』で「勤労者平均

願望、希望
かせるね。

オリンピック以来東京の道路は
よくなりましたねと人はいう。高
速道路が空中に弧を描いている部
分だけをみてのゆきずりの感想。

ところが13メートル以上の幅をもつ道路は全体のわずか3.5%、5.5メートル以上が23%と道路率はきわめて悪い。九人に一台、月々万台のわりでふえていくクルマの洪水のなかで事故は続出、町中では運転手と乗客が交互に腹を立て、アクビをしながらローカセコでよたついている有様だ。青梅、京浜東北、山手、中央各線では部分的に混雑度300%というから通勤客は窓から半分以上体がはみ出している形である。この通勤客の80%が疲労感を訴えており、そのせいかどうか知らぬが、たしかれ以後の乗客は関西にくら

円以上住宅三十坪、一人一寝室、駐車場つき高層アパート」とうたい上げられても実感とは遠すぎる。そんな現状のなかで都心をさること30キロ、横浜との間にできたニュータウンの地名が公募された。どんな名がつくかと思つて、たら、「等当選が「つくし野」とはうれしかった。まさに、排気ガスと騒音にいたげられた都民の願望、希求のあらわれ、むしろ泣かせるね。

オリンピック以来東京の道路はよくなりましたがねと人はいう。高速道路が空中に弧を描いている部分だけをみてのゆきすりの感想。ところが13メートル以上の幅をもつ道路は全体のわずか3.5%、5.5メートル以上が23%と道路率はきわめて悪い。九人に一台、月々一万台のわりでふえていくクルマの洪水のなかで事故は続出、町中では運転手と乗客が交互に腹を立て、アクビをしながらローカセコでやつていて有様だ。青梅、京浜東北、山手、中央各線では部分的に混雑度300%というから通勤客は窓から半分以上体がはみ出しだまま運ばれている形である。この通勤客の80%が疲労感を訴えており、そのせいかどうか知らぬが、たそれ以後の乗客は関西にくらべられても実感とは遠すぎる。

べて男も女もいかにもしおたれて元気がない。早死にするよなあ、

東京は！と、バケモノ都市の典型的な東京を批判し、悪口をい

うのは至極簡単だ。だが、ダブルの上着のポケットに片手を突っ込み、すっこけズボンの議員さんスタイル、オシンバッヂ・スタイルの原宿族、なにもかもひっくるめてゴロゴロ大きな音を立てながら転がっているようなカオス都市、

東京のみのもつたくましいエネルギーを否定するわけにはいかない。よくても悪くともそれはそのまま日本の象徴だ。

ともあれ、たまに帰つて六甲台からながめおろす神戸の町の灯はどう、心をなごませてくれるものはない。たとえ東京と変わらぬ生活がそこで営まれていようとも、まだまだ神戸の空気はうまく、人間らしい生活が可能である。

神戸はほんまにええとこや！しみじみと……。

神戸へ 帰りたいなア

藤本義一
△サンタリー・コーピーライター

東京へきて二年になる。しかしこちらもいなと思つたことは、ついこの間の一日しかない。これ

はみんな存じのことだ。

私の心はいつも神戸にある。何がそんなに私をひきつけ続けてきたのか、考えてみた。陸軍にいた二年を引いても三十数年を暮した街だといえばそれまでだが、永年いたからだけではない。もし私がこれから東京に三十年住みつづけたとしても、私は東京を好きにはなれないはずだ。こんなバカでかい街は真っ平ごめん。第一この街で、これから三十年も生きのびられるものか。ここはまったく、人間の住む場所ではない。

神戸。これこそわが街。山へ登るのに家から歩いていける。海で泳ぐには市電の二十円でこと足りる。東京なら思いも及ばぬことだ。つぎに肉がうまい。魚がうまい。酒がうまい。神戸にいると、まずい肉というのがあるはずはない。まあ東京へきて食べてみな。こちらじや馬の肉のほうがマシなくらいだ。だから神戸から母や妹がくるときの土産は牛肉に決めさせてもらっている。

私は月に一度くらい神戸へ帰つていて、そのときは魚を持って帰る。その夜、妻も二人の息子もご気嫌だ。何しろ、こちらへきて魚を喰つた途端、一家四人がジンマシンで体中をボリボリかいた。一晩眠れなかつた。活きのいいの

はみんな高級料亭へ流れるがそれでさえ、友人と築地の一流へ招待された竹中郁さん。ひとめ見ただけで箸を置いた。おいしそうだとバクツいた京大の著名教授。その夜はホテルでうなつたという。酒のことは書かない。しかしこれも、地元でその酒を呑める諸君は幸せだよ。知つてゐる人は知つてゐるんだ。

それからついでに「うどん」。私はこれがまた好きなのに、こちらのときたら、汁は雑布のしぶり汁。うどんまでオレの肌みたいにどす黒い。まったくやり切れない喰うものはこれくらいにして、風呂がまた関東は傑作。相当りっぱな構えの家でも洗い場にボインと風呂桶を置いただけ。女性がこれをまたいで湯舟へ入るとこなんか、まったく泣きたくなる。はずかしいでエ。そのうえ焚き口が風呂場のなかにあるのだから、これじゃハダカでガス中毒死するわいナ。神戸にいたんでは全く理解のできんことだつせ。「神戸いいとこ」を書くのなら、百枚書いても書きたりないので、私に許されたのは三枚だから門口を通つただけ。東京のものの値段がこんなに高いというのを書いたら、奥さん連中、亭主の転勤にハンストするかもわからんナ。とにかく東京

大阪へ勤めて、休みには京都や奈良へ行つていたら、こんなへざさやかなせいたく▽はないと思つて
いる。

それに私の場合、神戸とその近郊で友人に恵まれすぎている。これは私にとっては何よりの支えなので、機会をつかんでどうしても神戸へ帰りたいと願っている。こんなに神戸が好きなので、あ

えて苦言をひとつこと。私は横浜に住んでいますが、元町・センター街は横浜の元町のほうがひょっとするとエエかもしだれん。山下町「中华街」のズラリと数十軒並んだ中国料理店は、一ヵ所にまとまってゐるので神戸とダンチ。昔の神戸の南京町がなつかしい。

最後にいちばんバカくさいのが△みなどの祭▽。まあ横浜の△みなど祭▽を見にきてみいな。胸がスカッとするワ。今年は神戸もがんばるらしいけど。

商用でよく東京に出掛ける。そのたびに感じることは、東京がカラーに乏しいということである。東京に多く見られる色といえば、黒、紺がほとんど。それに反して神戸では、街はカラーにあふれていて、見る人をも楽しませる。街行く人の服装もカラフルで、建物もモダンなものが多い。神戸はそんな色のピッタリする街なのである。

ある画家が、六甲の山の夕暮の色をしきりに愛でていた。その幾通りもの色に変化していく様子が、何とも印象に強く、今でもその色をカンバスに再現することができるというのである。その話を聞いて、神戸に住んでいる私もなるほどと大きくうなづいたのであったが、神戸はこうした色にひじょうに恵まれた都市と言えるのではないだろうか。

東京の人は田舎の人が多く、流行にはすぐとびつかが、それをうまく自分のものにすることが下手だ。そこでいきおい、服装においても画一化されたものにならざるをえない。○○族という如きのものはその典型的なものである。神戸の街には、流行をうまく自分のものにした人や、あまり流行にとらわれないセンスのいい服装をした人が多いように思う。

こうした神戸と東京のカラーの違いというのは、何事をも受け入れ消化しようとするミナト神戸と官庁中心の東京との違いによるのではないか。したがつて外国人が一番住みやすいのも神戸だという第一、街を歩いていても誰も振り返つて見ない。外国人も、エトランゼというより日本人と同じ意識で歩ける。そんなところにもコスモボリタン神戸の面目躍如たるものがある。

商売面にも大きな差異が認められる。東京の商売は“売つてあげます”式。大阪のそれは“買ってもらいます”式。これに比べて神戸の商売は“お気に召す品を買って下さい”式ということになる。昔から、神戸の商売には團結力がなく、ゴーリング・マイ・ウェイ型のもののが多かった。最近はだんだん緩和されつつあるが……。

いろいろな面で、神戸と東京の違いはあるが、東京の人が神戸を何か憧れに似た気持をもつてながめているのは事実である。すぐ近くに神戸とよく比較される横浜があるが、すぐ近くの横浜よりも、憧れるにちょうどいい距離にある神戸はそのような想いを寄せるのは当然かもしれない。又それだけのものを神戸はもつてているといえ

神戸カラード
東京カラード
永田良一郎

永田良一郎
△永田良介商店社長△

マロングラッセは ヒロタの銘菓

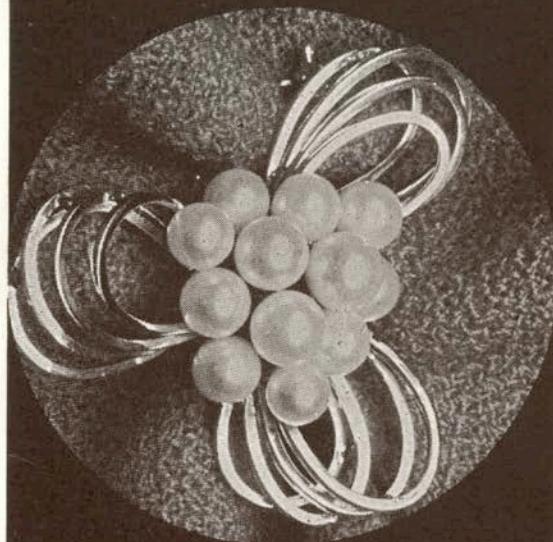


洋菓子の ヒロタ

〈神戸〉元町店・三宮店・さんちか店
秀品店
〈大阪〉梅新店・富国店・ウメダ店
大阪駅東口店・心斎橋店・戎橋店
ナンバ店・天王寺店・天満店・京橋店
守口店・新大阪駅店・淡路店・尼崎店
西尼崎店

Kitamura Pearls

世界の人々に愛される
キタムラパール



北村真珠株式会社

神戸：元町店 TEL ③ 0072
東京：スカヤ橋店 TEL <571>8032

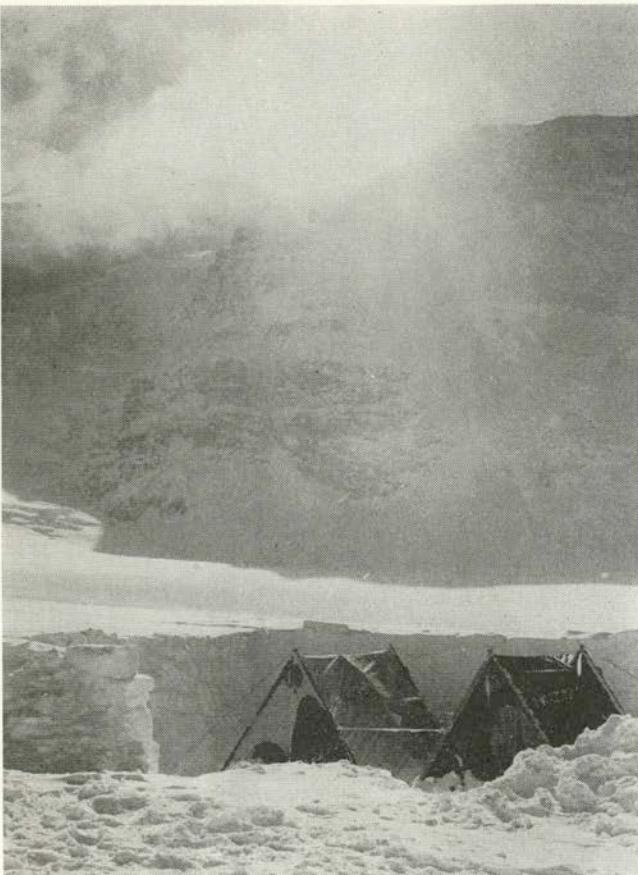
アラスカへの道

マウント・コウベ登頂記

宮崎辰雄

★アラスカ・未登峰の登頂に成功

兵庫県山岳連盟が、神戸開港・兵庫県政百年を記念して計画した日米合同アラスカ登山隊の萩原邦一、松本武彦、大野光彦の日本隊員三名は、アメリカ隊のステーリー・ハーブ、エド・ボーレルトン、ガレン・マックビーの三名とともに、一九六七年四月二十七日午前八時二十分(



ラッセル氷河上のたそがれのベースキャンプ

日本時間二十八日午前三時二十分)、アラスカ・ボーナ山塊の未登峰(四、四〇二崩)の登頂に成功した。この未登峰はマウント・コウベと命名せられ、世界の地図にその名がとどめられることになるであろう。つづいて、三十日正午ごろ(日本時間五月一日午前七時ごろ)藤田副隊長、萩原登はん隊長をはじめ十四名全員が、同峰に登頂した。

★日米合同して

この計画は、兵庫県山岳連盟が神戸新聞社と共催のもとに、兵庫県政百年、神戸開港百年、アラスカ百年祭および神戸・シアトル都市提携十周年を記念して、日米合同登山隊を編成し、本年四月と五月を期して決行せられたもので、日本隊は私が團長、隊長は兵岳連の津田会長、副隊長は藤田博氏、登はん隊長は萩原邦一氏の総勢十六名、アメリカ隊はシトルの登山団体ザ・

マンティニヤーズのメンバーで、ラングダル隊長をはじめ十四名である。

このアラスカ登山は、その準備に長い期間が必要であった。兵庫県山岳連盟では、かねてから海外へ登山遠征隊を送りたいと考えていたが昭和三十八年の夏、シアトルの写真家スプリング氏が日本の山の撮影のため来日した時から日米間で話が進められ、同氏の橋渡しで、神戸の姉妹都市シアトルの山岳団体ザ・マンティニヤーズとの合同登山が計画された。昨年の春になってアラスカ、カナダの国境にまたがるユーコン山岳地帯を対象にして具体的な計画がたてられたが、その後、その北西のアラスカ・ボーナ山塊（主峰ボーナ山は五、〇〇五㍍）の未登峰に変更された。シアトルでは、すでに昨年八月この計画が新聞に発表され、その時にはまだ決心していないかった私の団長就任まで報ぜられているのには驚いた。メンバーの選定、資金および装備の調達、現地事情の調査など必要な準備は総て順調に進み、第一次先発隊は秋原登はん隊長を含め三隊員が、三月三日川崎汽船おれごん丸で装備をつんで出発、第二陣は藤田副隊長と大野マネジャーが三月二十日羽田空港を発ち、本隊は私をはじめ十一名が四月五日空路出発した。

★ロング・ロング・ウエー

第一次、第二次先発隊はシアトルで合流し、大野マネジャー一人を連絡のため同地に残して、藤田副隊長をリーダーとする日本隊員四名は、アメリカ隊のハース氏とともに、装備の輸送とベースキャンプの設営にあたるため三、四〇〇キロの雪と氷と厳寒のアラスカ・ハイウェーを、フォルクスワーゲンのマイクロバスを運転して、六日間の昼夜をわかつぬ戦闘の末、三月二十九日輸送基地のノースウェーへ到着した。続いて同氏らは、休む暇なく、チャーターしたセスナ機でラッセル氷河に入り、ベースキャンプの設営に成功した。

私は、シアトル着の後、津田隊長、ベースキャンプか

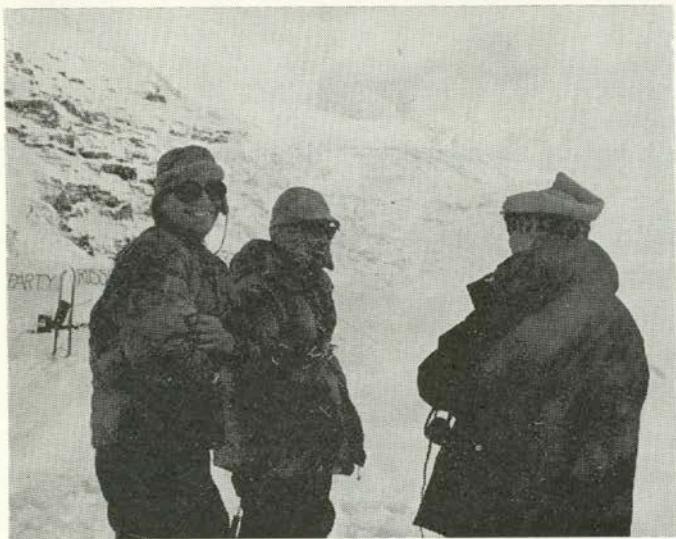


写真上は輸送基地ノースウェーで犬そりで遊ぶ隊員たち。

右はベースキャンプに到着した私たちを迎える萩原・ハース両隊員。

P19左は吹雪のベースキャンプで作業する隊員たち。





ら帰来した藤田副隊長などとともに奈良シアトル総領事とランダル・アメリカ隊長の案内で、エバンズ・ワシントン州議会下院で演説し、シアトル朝野の歓迎会出席するなど公式行事をおこして、四月七日、日米合同登山隊を編成して空路アラスカ第二の都市フェアバンクスへ向つた。

フェアバンクスでも、空港にバッチャー市長の出迎えを受け、歓迎会、市会での挨拶、ラジオ放送など一通りの行事をすませて、八日午前十一時、バスにて四八〇号の彼方のノースウェーへ向つた。

初めて踏むアラスカ・ハイウェーは、見渡す限りの、雪と樹や白樺の広野を、ただ一すじに、いつ果てるともなくのびている。人を見かけると、隊員が『人がいたいた』と頗狂な声をあげるので、皆で大笑いをした。河も湖も凍つて真白く、それに樹木の黒が加わり、天地はただ白と黒のみの、しかも無人の世界である。遙かにも来つるかなとの感慨が胸に湧く。

★冰雪・酷寒・高度・天候との闘い

夕方、長いバス旅行ののち、ノースウェーについた。驚いたことに、とっくにベースキャンプに入っていると思っていた松本、岡本両隊員がバスに走り寄つて來た。萩原、ハースと藤田副隊長がベース入りをした翌日から天候が悪くなり、六日間飛行機が飛ばないとのこと。萩原君は氷河の中でどうしているだらうか案じられる。基地の夜は零下十度。

翌九日は晴天。ランダル・アメリカ隊長、松本、藤田重夫両隊員がまず飛び、続いて私と津田隊長がセスナ1機に乘込む。機上よりの眺めは、平地部はどこまでいつても昨日見た通りの白黒の世界だが、山地にかかると、俄然、様相は一変する。陽光にきらめく冰雪の威厳たる峰々とその谷あいを埋める氷河。雄大なスケールに圧倒される。ボーナ山塊に近づくと、一きわ雄大なラッセル氷



河が見え、セラックス（氷の塔）やクレバス（氷の割れ目）が機上からはつきり見える。氷河上の遥か彼方に黒点のようないものが見えてきたが、近くとそれがベースキャンプであった。機が氷河の雪上に着陸すると、萩原登はん隊長がかけ寄つて、だきついて、アメリカ隊員とただ二人、猛吹雪の中で一週間暮した苦しさを涙声で吐きだした。

天候の変化のはげしさを知っていた私と津田隊長は、次のスケジュールがあるので、うしろ髪を引かれる思いで、その日のうちにノースウェーへ帰つたが、果せるかな翌日より飛行機は飛ばず、全隊員がベースキャンプ入りをしたのは十三日になつたとのことであつた。

ベースキャンプから眺められる山は、マウント・ボーナやマウント・コウベの前山に過ぎないが、アイスホール（氷の滝）がかかり、氷壁と岩肌がそびえ、登はんには相当の困難が予想せられた。しかし私が帰国した後、藤田副隊長の指揮のもと、吹雪と氷点下三十度という酷寒に悩まされ、セラックスやクレバスに道をははまれながらも、また高度に順応できず高山病に倒れた隊員を介抱しながら、先ずマウント・ボーナに登頂し、遂に待望の未登峰マウント・コウベの初登頂に成功した、との報に接することができた。くわしいことは六月上旬の隊員の帰国をまたねば知り得ないが、あらゆる困難に打勝つて成功し得たものは、隊員の協力と技術・体力および完べきな準備にあつたといえるだろう。

△神戸市助役

写真上は、ワシントン州知事エバンズ氏を訪問した登山隊員たち。左から四人目・津田隊長、六人目・宮崎田長、中央・エバンズ知事、知事の右からランダル米国隊長、ランダル夫人、奈良シアトル総領事、藤田副隊長。